

各部会における協議内容の報告

結婚・子育て支援部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ワークライフバランス推進部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
若い世代部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3

1. 少子化対策の充実強化について

(1) 周産期医療体制

・3,721人という出生数の数は衝撃的であり、これから、ものすごく厳しい時代が来る。10年・20年後には2,000台の試算。こうなると、周産期医療の危機。小児科医がいなくなっていくことが懸念されるが、生殖年齢の女性が高知からいなくなっているのが一番大きい原因だと考える。

(2) 不妊治療について

・高知県は全国レベルで考えても成功率は高い。一方で、不妊治療を受けることについての職場の理解度が低いのは課題だと思う。また、保険適用になったからとは言え、治療を数十回繰り返すことを考えれば、自己負担は重たいと思う。

(3) 女性が活躍できる環境づくりの推進について

・企業は8時間労働の雇用が必要な一方で、女性側は昼間の3時間、5時間、単発で働きたい人もいる。そうしたマッチングも必要になってくると思う。

2 婚姻数及び出生数の増加について

・子ども産んでも、地域が守ってくれるような安心感が必要ではないか。顔の見える関係をつくる地道な活動が大切だと思う。

・高知県全体の魅力を高める必要があると思う。県全体でなにか抜本的な策が必要だと思う。

・子育て世帯が働いている時に、安心して子どもを預けれる場所・環境が必要だと思う。

・ひ孫が保育園で熱を出した時には迎えに行っている。自分が手伝っていなかったら夫婦は大変。保健室のように子どもを面倒みてもらえる仕組みがあれば良い。保育園に看護師がいると、子どもの軽い症状等に対応できて良いのではないか。

・高知県は子育てしやすいと感じている。オンラインで仕事もできるようになり、働き方が自由になり状況が変わってきたように思う。

・大学入学前の奨学金制度等を調べており、子どもが県外に出ても高知に戻って来られるような施策は大切だと思う。

3. 男女の固定的役割分担意識について

- ・農家、農村では、ご夫婦で家族経営している家庭が多く、男女も同じ仕事をしている。しかし、対外的な会議は夫が対応し、家事は妻というケースが多い。
- ・随分と男女が平等な意識にはなっていると思う。しかし、子育てをしていると、潜在的に、「お母さんがやらなきゃ」という意識がある。
- ・男の人の育休に関して、職場の人たちが本当のところ快く送り出しているだろうか。少しずつ、意識を解消していくしかないのではないか。
- ・小中学校の段階から子供たちへの教育を進めていくことが大切だと思う。
- ・当たり前にも今の世代がやっていることは次の世代の人たちは、おかしいと思っ

【ワーク・ライフ・バランス推進部会報告】

※主な意見

1. 少子化対策の充実強化について

(1) 女性が活躍できる環境づくりの推進

- ・女性のニーズを聞いて、その意見に応じた職場を創っていくことが大切ではないか。

(2) 世帯のあり方の変化について

- ・女性が活躍するから、共働き世帯が増えたというよりも、昔は専業主婦でも生活できていたが、最近は生活が厳しくなって、女性も働かざるをえない状況なのではないか。

(3) ワークライフバランスの推進について

- ・ワークライフバランス認証企業に選ばれたところに対する、就職面接会の実施など、認証企業を対象としたさらなる後押しができないか。

2. 若者に選ばれる高知県について

- ・女性が課題と考える問題点（お手洗い、労働時間等）を解決していけば、今まで女性から敬遠されてきた業界でも、さらなる女性の活躍が見込めるのではないか。
- ・働きやすい職場環境、働きがいのある職業・職場だと思わせる取り組みが、流出を防ぐことにつながるのではないか。
- ・中山間に行けば行くほど、子どもにとってのロールモデルが身近にいることが少ない。
- ・保育園にお子さんが居る時間がどんどん長くなっていると感じる。日本全体で柔軟な働き方、労働時間の短縮も検討された方が良いと思う。

3. 男女の固定的役割分担意識について

- ・賃金の男女格差はない。事務局長のなり手は、女性に荷が重いと考えられていて重責を負っていただけない状況である。
- ・教職でも女性教員が保育園などにお迎えに行くことが多い。子育てサポートプランなどの対象となる教員に使ってもらおうよう促したい。女性の管理職へのなり手は課題である。
- ・今は働くことに集中したい、今は子育てに集中したい等、社員それぞれの思いがあり、一概に女性を活躍させるのはなかなか難しい。看護休暇を男性社員でも時間単位で取得することができ、実際にその申請も結構ある。
- ・女性社員は4割で、管理職として活躍している人も多い。ここ20年程度、育休明けの人もキャリアを積んでいる。育児休業をとる男性もいれば、時差出勤を利用している人もいる。掃除を奥さんが苦手なので全般やっているという男性社員もいる。
- ・高知県の女性は自立、自律できると思う。自分も働いて家計を助けるという感覚があると思うが、労働環境だけで無く、穏やかな人間関係も必要だと思う。

【若い世代部会報告】

※主な意見

1. 男女の固定的役割分担意識について

- ・企業が「残業しなくていい働き方」を考えていくべき。既に若い世代は、今の働き方のおかしさに気付いている。「昭和の働き方は自分たちの世代で終わらせる」と意識し、当たり前とされてきた働き方を時代に合わせて変えていく役割は、40代が担っていると思う。人を雇う側が「男性は際限なく働ける」「女性は子育てで制限される」といった考え方をやめて、男女ともに仕事もプライベートも充実する働き方に変えていかないと、「男女の固定的役割分担意識」の問題は永遠になくならないと考える。
- ・個人の権利と無意識の上司の価値観にはギャップがあり、部下が休みを申請すると上司が一言を言ってしまうケースもあり、そうしたことから若者は休みをとり辛い場合もある。
- ・地域性や職場によって、個人の希望はまちまちだと思う。女性がどんな環境でどんなことをしたいかということ、ケーススタディした方が良いと思う。
- ・男女の問題や若年層のギャップについて、教育のなかで、やっていくことが大切ではないか。授業の一つとして増えたら変わるんじゃないかとも思う。

2. 事業（座談会及びイベント）

令和5年度の若い世代部会の事業として、県内在住の若者の「出会い・結婚」に関する等身大の考えを知事らと語り合う「座談会」を開催するとともに、若い世代の交流の機会づくりとなるイベントを実施する。

○座談会

【ねらい】

今の若者のリアルな声を届けることで、「出会い・結婚」についての課題や当事者ニーズを共有し、少子化対策の施策に生かす。

【参加者】

県民会議側（4名）

- ・高知県商工会議所連合会会頭 西山 彰一
- ・高知県知事 濱田 省司
- ・高知県市長会副会長 板原 啓文（土佐市長）
- ・高知県町村会会長 池田 三男（津野町長）

県民参加者（8名）

県内在住の20代から40代の独身者（女性5名 男性3名）

【開催日】

令和5年9月4日（月） 午後3時～

【会場】

高知城ホール 2階 中会議室

【内容】

- ・自己紹介
- ・出会いと結婚をテーマに若者それぞれの思いを語り意見交換を実施
- ・まとめ

○イベント

【ねらい】

- (1) 若い世代の出会い・交流の場をつくる
- (2) 婚活を前面には押し出さずに、仲間づくりの印象を強めて、継続的な交友関係の維持につながるようにする

【内容】

- ・運動が苦手な人でも気軽に楽しめる社会人運動会を開催し、夜にはB B Qで交流を深める
- ・高知県法人会連合会（こうち出会いサポートセンター）との共催により、異業種交流イベントとして開催する

○日時：令和5年11月23日（木・祝）13時半～20時

○場所：高知県立県民体育館、高知大丸「バーベキューパラダイス」

○対象：20歳～概ね45歳までの独身男女

○現時点での競技（案）

参加者の交流時間をできるだけ長く確保するため4競技程度とする

- ・ソフトバレー
- ・玉入れ
- ・4人5脚
- ・リレー

◆案内チラシを印刷のうえ、参加者の募集を開始

- ・若い世代部会員を中心に出会いを求める若者に声かけを行う

募集フォーム：<https://forms.gle/AJ62Sabxbfmzjm2b9>